

# 福音の園だより

平成18年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞  
平成27年度「介護職員確保・定着のための優れた取組」表彰  
グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定  
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一  
特定非営利活動法人 **福音の園・埼玉 事務局**  
☎ 049・230・1111 (FAX 230・1112)

## ご家族の声

### 風薫る季節、母を入園させて頂きました

働くのが好きな妻が仕事を辞め、面倒を見続け、毎日の報告に胸を痛める。未だ早いかも、大丈夫かも…と悩み続けた日々。意を決し、見学させて頂きました。ホーム長様及びスタッフ皆様の優しさで施設の清潔感、そして自然の残る周囲の環境の良さ。悩むこと無く心決めました。

入園当日、ホーム長様が新湯で採ってこられた露ふきの皮剥きを手伝う母の背中をそつと見送り、夫婦で九十川沿いを複雑な気持ちで歩きました。戻ると、皆で食事中。別れ際には、拒絶することもなく意外な程あつけなく、またね。母も直ぐに受け入れることが出来た様子です。貴園のお陰で我が家が安らぎを感じられる場所に戻りつつあります。これから『良い知らせ』を楽しみに日々過ごして行きたいと思えます。



(K・T)

## お知らせ・第22回ボランティア体験プログラム

受入期間：7・21～8・31 時間：9～16時

## お便り紹介

### 「ふるさと」の言葉でお世話「J-K」へ回感

「ふるさと(世間)の言葉でお世話」には、全く同感です。ご利用者お一人ひとりに「解語言葉」で語り掛ける。改めて、そうだなあと思いきこしました。

介護支援専門員の研修でも、ケアプランは「利用者が自分のプランだと思っていたため」には、「外出時に転倒に注意する」でなく、「そとさ、では、けつまずかないようにすつべ」と言うという茨城弁の表現もいいのではと推奨していた時もありました。研修主催者から「標準語で」と諭され、それ以来私も引つ返してしまいました。ケアプランに書くかどうかは、公式に出来ずとも、自分の馴染んで来たふるさとという言葉があつてこそ、伝わっていくものはありますので、認知症の人には余計に大事にしたいケアを探索していこうと思います。(中略)

山浦玄嗣氏の『ケセン語訳聖書』は、所属教会の清野牧師が度々説教で取り上げて下さり、山浦氏をお招きしての講演会も10年位前にしていただきましたので、常々、日本人のそれぞれのふるさとに想いを忍ばせ、ストンと胸に落ちる言葉の在り方は、非常に大切だと私も考えていました。(中略)

新改訳聖書になってから、30年も不快用語、差別用語は、「聖書の言葉だから」ということで異議を唱えても、なかなか変わりませんでした。原語にいくら忠実であつても、メッセージの受け手を考慮しないコミュニケーションによる宣教の時代が続いたと思えます。



福音は、「言葉による伝達と社会への立証がある」と聞かされてきましたが、福音をコミュニケーションと考えれば、一方通行で「神の愛」を叫んでも届かない訳で、聖書そのものが、ある特定の時代の、特定の地域の、特定の民族を選び、神様が伝達しようとした、その意図の深み、愛を感じ取り、実践していきたいと思えます。(後略)

学生たちの前に立って、こうした視点も大事にして、教育にあたらせていただきたいと思えます。今後のさらなるご発展に、主の助けと祝福を祈っております。

東京基督教大学・国際キリスト教福祉学科

キリスト教福祉学専攻 准教授 井上 貴詞

## 平成28年度・サービス外部評価調査を終えて

### 利用者本位は職員本位に通じる

「10回目」サービス外部評価を実施(28.10.31)。埼玉県指定評価機関が、次のように評価下さった。『埼玉県の「介護職員の確保・定着のための優れた取組事業所」として表彰された。管理者は、「人として当たり前のことを当たり前にしているだけ」とお話しされるが、当たり前のことを職員全員が当たり前と考え、足並みを揃えることは簡単なようで難しい。』

職員が働きやすいよう、夜勤の負担を減らした5交替にし、昼食、夕食準備に専念できる職員を置く業務体制をとっている。その為、手をかけた美味しい料理を提供することができ、利用者の食欲増進、健康に繋がっている。毎月、全員参加の職員会議を開催することで、全員が管理者の口から同時に理念の説明を聞いている。この積み重ねにより、介護への考え方が事業所全体に浸透し、利用者の支援方法は、理念に基づくものになっている。

管理者の利用者本位は職員本位に通じるとの考え方が、職員が利用者的大事にする気持ちとなって表れている。』

## 来訪歓迎 視察「ワンちゃんと遊ぼう」活動風景

社会福祉法人親愛会 主任生活相談員様(川越市)